

■真崎甚三郎 陸軍軍人。長州閥専横への反感を背景に皇道派の首脳となり、統制派と対峙して、失脚。

まざき じんざぶろう

三つの反乱・1876＝ 佐賀県神埼郡境野村(千代田町)で、農業真崎要七の長男に生まれる。

明治14年政変1881＝ 5歳：

内閣発足・・・1885＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝13歳：

佐賀中学卒業後、  
日清戦争始・1894＝18歳： 士官候補生を経て、  
日清戦争終・1895＝19歳： 陸軍士官学校に入り、  
白馬会・・・1896＝20歳： 卒業(9期)、少尉に任官する。  
八幡製鉄始・1897＝21歳： 歩兵第46連隊付となり、  
子規句歌革新1898＝22歳：

日比谷公園・1903＝27歳：  
日露戦争始・1904＝28歳： 同中隊長として<日露戦争>に出征、  
日露戦争終・1905＝29歳：

韓国反日暴動1907＝31歳： 陸軍大学校を卒業し(19期)、軍務局に出仕する。  
アラビヤ創刊・ 1908＝32歳： 軍務局軍事課員となり、  
伊藤博文暗殺1909＝33歳： 少佐に進級、

大逆事件判決1911＝35歳： ドイツに赴任し、  
明治天皇没・1912＝36歳：

第一次大戦始1914＝38歳： 帰国。中佐に進み、歩兵第42大隊長となる。  
21ヶ条要求・1915＝39歳： 久留米の俘虜収容所長となる。  
民本主義・・・1916＝40歳： 教育総監部第二課長となり、

本格政党内閣1918＝42歳： 大佐に進級、

大暴落・・・1920＝44歳： 軍務局軍事課長となる。  
原敬首相暗殺1921＝45歳： 近衛歩兵第一連隊長に転じ、  
水平社結成・1922＝46歳： 少将に昇進して、歩兵第一旅団長となる。  
関東大震災・1923＝47歳： 陸軍士官学校本科長となり、

治安維持法・1925＝49歳： 同校幹事、  
円本時代始・1926＝50歳： 同校校長となる。  
金融恐慌・・・1927＝51歳： 中將に昇進、弘前の第八師団長に転ずる。

世界恐慌・・・1929＝53歳： このころから長州閥専横への反感と、中堅・青年将校への好意を示し始め、  
東京の第一師団長に移る直前、陸大卒将校を中心に{一夕会}が結成され、荒木貞夫・真崎・林銑十郎の三将軍を推戴し陸軍を建て直すことが申し合わされた。

海軍軍縮条約1930＝54歳：  
満州事変・・・1931＝55歳： 台湾軍司令官に転じたが、  
五一五事件・1932＝56歳： \*盟友荒木陸相の推挽で参謀次長に就任、参謀総長閑院宮載仁親王に代わって参謀本部を主宰。この時期、荒木・真崎・林の下には{一夕会}系陸大卒将校や北九州・土佐出身軍人が結集し、皇道派が形成され、宇垣系を駆逐して陸軍の支配的勢力に成長する。

国際連盟脱退1933＝57歳： 大将昇進に伴い参謀次長を退任、軍事参議官となる。  
帝人疑獄事件1934＝58歳： 病気を理由に辞任した荒木陸相の後任に擬せられたが閑院宮の反対に遭って果たせず、教育総監兼軍事参議官となった。荒木・真崎の郷党人事を批判する永田鉄山らは林の庇護のもと、統制派を形成し、皇道派の分裂が始まり、皇道派の最高首脳として、林の離反防止に努めるとともに宇垣系・統制派と対峙したが、

芥川直木賞始1935＝59歳： \*教育総監を罷免され、軍事参議官専任となった。  
二二六事件・1936＝60歳： <二・二六事件>後の肅軍で予備役に入り、反乱幫助容疑で拘禁されたが、  
日中戦争始・1937＝61歳： 無罪判決を得て出獄。政治活動を再開し、  
第二次大戦始1939＝63歳：  
日米開戦・・・1941＝65歳：

戦争中には、近衛文麿・吉田茂らと結んで反東条運動、小林廣造内閣擁立運動などを行なう。  
敗戦・・・1945＝69歳： \*A級戦犯”容疑者”として収監されたが、  
新憲法施行・1947＝71歳： 釈放された。  
極東裁判決・1948＝72歳：

独立回復・・・1951＝75歳：

国連加盟・・・1956＝80歳： 心臓麻痺のため\_没した。